



もとはし 本橋 ひろたか

東京都議会議員
(豊島区選出)



プロフィール

昭和36年11月9日豊島区高松で出生。忠信幼稚園、豊島区立高松小学校、豊島区立千川中学校、立教高等学校を経て、昭和59年3月立教大学法学部法学科卒業。

平成11年豊島区議会議員初当選(連続5期)。豊島区議会議長(2期)等を歴任。

平成29年東京都議会議員初当選(連続2期)。東京都議会副議長、予算特別委員会委員長等を歴任。

第1回定例会にて、令和5年度東京都予算が成立!!

今号は、私達の要望が盛り込まれた予算と、私の活動の紹介です

ごあいさつ



小池都知事と本橋ひろたか副議長

約3年の長期に及ぶ新型コロナウイルス感染症対策に、都は引き続き都民の安全・安心に最大限配慮した取組を進めていくことが求められますが、同時に、国において5類移行が本格化する等、社会的に新たな局面を迎えようとしており、ポストコロナを見据えた「未来の東京」の実現に向けた構想の加速は待たなしの状況といえます。

小池都知事は、この度の令和5年度予算に関し、明るい未来の東京の実現に向けて、将来にわたって成長と成熟が両立した、光り輝く都市へと確実に進化し続ける予算であり、子供達への投資、安全・安心、美しい地球を未来に残す取組等、都民目線に立った事業に財源を振り向けていると評価しています。

その令和5年度予算は、一般会計で過去最大の総額8兆410億円(全会計合計で16兆821億円)規模となる一方、事業評価の取組をはじめとした財政面の不断の改革を進め、5年間で約5800億円もの予算を捻出するなど、メリハリのついたものとなっており、「賢い支出(ワイズスペンディング)」の観点を堅持したものとと言えます。

加えて、令和5年度予算は、私達の要望が幅広い分野で実現されており、強い期待感が持てるのもまた事実です。もっとも、さらなる取組の拡充が必要な分野もあることから、一層きめ細かな施策となるよう今後も各種委員会審議において多角的に質疑や指摘を行ってまいります。

区分			令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
一般会計	歳入	うち都税	8兆410億円	7兆8,010億円	2,400億円	3.1%
		うち一般歳出	8兆410億円	7兆8,010億円	2,400億円	3.1%
	歳出	うち一般歳出	5兆9,354億円	5兆8,407億円	947億円	1.6%
		うちコロナ対策除く	5兆9,354億円	5兆4,822億円	4,532億円	8.3%

新型コロナウイルス対策や物価高対策等は、令和4年度最終補正予算において各種の措置が取られています。「補正予算」「本予算」いずれの予算・議案審議においても、①都民ファーストの視点になっているか、②情報公開が十分か、③賢い支出となっているか、④持続可能性のある取組となっているか。この四つの政策判断基準に立って、私達は都の取組のさらなる具体化・実効化を図り、各施策の着実な推進を目指してまいります。

私達の要望が、多くの分野で実現!!

【子育て支援について】

「所得制限なし」「子ども一人あたり月額5,000円」の給付については、私達が最重要要望項目に挙げた予算であり、国の児童手当の所得制限撤廃議論の中、先行して「所得制限なし」ですべての家庭へ支援が決定されました。

卵子凍結とAMH検査については、昨年の第4回定例会でも、私達からの要望により、知事から卵子凍結の社会的適応について表明がされました。一人最大30万円の費用助成がされることで、子供を持ちたいと願う都民にとって新たな選択肢が生まれました。

合わせて、妊孕性をはかり、正しい知識を持つためのAMH検査についても予算がつけました。

【女性活躍について】

女性の経済力向上施策については、かねてより扶養控除の問題が働きたい女性にとって大きなハードルとなっていることから、私達は、都としての側面的な支援、女性の経済力向上に向けたリスキリング支援のさらなる強化を求めてきました。

新規事業の「女性向けキャリアチェンジ支援事業」を始めとする各事業の創設はこうした私達の要望に応えたものです。

【教育施策について】

フリースクール等に通う子供に対する取組については、多様な学びのあり方を実現し支える観点から、フリースクール等の認証制度と保護者負担の軽減策を要望してきました。

今回、都として保護者への調査協力を拡充しましたが、今後も運営者側への支援も含め、多様な学びを実現するよう着実な制度構築を要望してまいります。

加えて、Society5.0時代の到来を前にして、高度IT人材の育成に向けた子供達へのICT教育の拡大・深化が急務です。身近な場所で最新のテクノロジーに触れることのできる、いわゆる「コンピュータークラブハウス」の設置等の施策が盛り込まれました。

【高齢者施策について】

高齢者の自立支援に取り組む事業者を支援していくにあたり、介護度の改善に応じた報奨金を設け、元気な高齢者を増やす取組が重要と考え、これまで私達が強く要望を行ってきました。

そうした中、元気度のアップに必要な介護量を減らすため、福祉用具やICTを駆使し介護の質を向上させ

る取組への報奨金制度が創設されました。

今後も高齢者が安心して歳を重ねることのできる社会の実現に向けて提言してまいります。

【防災施策について】

今年に関東大震災から100年、都でも30年以内に7割の確率で到来するとされる首都直下地震や、激甚化する風水害対策に向けてさらなる取組の強化が必要です。

都では、都市強靱化プロジェクトを昨年末に策定しており、令和5年度予算についてもハード・ソフトともに支援拡充が図られました。

町会や自治会に向けた感震ブレーカーの配布や避難所となる学校体育館へのWi-Fi設置費用助成等、私達が求めた対策が実現しました。

また、都民の7割がマンション等の集合住宅に暮らしていることから、マンション防災の強化を求めてきましたが、マンション防災に必要な蓄電池や備蓄ボックスなどの費用助成が行われます。

【多摩振興について】

多摩地域の交通アクセスは長年課題とされており、私達も鉄道の利便性向上や高速道路利用の負担軽減等、エリアの魅力向上に向けた取組を求めてきました。

今回、課題解決にむけた本格的な調査費が計上されましたが、地域のインフラ整備は多くの都民の皆様に影響を及ぼす施策です。多摩地域の都民の皆様への気持ちに寄り添った丁寧な議論を行い、着実な施策の推進に資するよう引き続き努めてまいります。

【環境政策について】

私達は、サステナブルな社会の実現に向けたGX(グリーン・トランスフォーメーション)の加速は必要不可欠であり、最大のエネルギー消費地である東京こそ、先手先手で取組を進めていくべきと主張してきました。そして、昨年の第4回定例会において、東京都環境確保条例を改正し、今後は都民の皆様への理解促進と、発電設備や蓄電池等の普及を積極的に進めていく必要があります。

令和5年度予算は、その両面に対する施策の創設・拡充が反映されており、各制度の着実な実施を求めていきます。あわせて再生可能エネルギー関連施設への投資とGXに取り組む企業への支援ファンド創設といった公共調達の拡大などは、私達が提唱する「東京版グリーンニューディール」の実現に繋がるものとなっています。



本橋ひろたか都議会副議長としての活動

●体験型英語学習の普及

立川市において東京都教育委員会及び株式会社トウキョウ・グローバル・ゲートウェイの両者で開設を進めてきた体験型英語学習施設「トウキョウ・グローバル・ゲートウェイ・グリーン・スプリングス」のオープニングセレモニー及び施設見学会に参加して参りました。

今日英語は世界中の多くの人々と交流する為の共通言語の一つとなっておりますので、多様な文化や価値観を認め合ったり、尊重し合ったりする為には、英語を通じたコミュニケーションが不可欠となります。

この「T・G・G・グリーン・スプリングス」では、プロジェクションマッピングを駆使して外国の食堂や薬局、市場などを再現することの出来る、定員40名の教室(合計8室)があり、買い物や食事といった体験活動を通して楽しみながら英語を学ぶことが出来る仕組みとなっています。もちろん、その際には外国人講師の指導や触れ合いがあり、「自分の英語が通じた」という成功体験が得られるような工夫が随所に凝らされてもいます。今後、多くの子供達がこの施設を利用して、異文化への理解や関心を高めて、豊かな国際感覚を育てることが、大いに期待できる、そんな海外生活疑似体験&実践英語学習施設と言えます。

東京の未来を担う子供達の成長を支援するとともに、国際都市・東京のさらなる発展にむけて、こうした実践的な英語学習環境の現場への提供の重要性・必要性をつくづく感じさせていただきました。



セレモニーでのご挨拶

●高齢者福祉と生きがいづくり

都内で執り行われました豊島区高齢者クラブ連合会主催の「創立60周年記念式典・新春のつどい」に出席して参りました。

例えば、私の地元の東京都豊島区には、129の町会があり、それぞれに高齢者クラブというものがあります。私の所属町会ですと、「豊島区高松3丁目町会」には「高三長寿会」というものがあるわけですが、大体60歳ないし65歳位からの入会となるわけですが、その多くの方々が、例えば、シルバー人材センターに登録していたり、レクリエーション協会に所属していたり等々、様々な分野で、いまだに現役で活躍されている皆さんが数多くいらっしゃいます。そういった様々な活動をされている方が一堂に会して情報交換できる組織は極めて重要です。

この度、本団体は60周年を迎えたことから昭和37年に創立と言う事になるわけですが、こうしてセカンドステージとして何がしかの社会貢献活動等を可能とする基盤的集合体の維持は勿論のことですが、その組織の活性化を都は引き続き充実させていく必要性を感じます。



●ウィズコロナと働き方改革

東京国際フォーラムのホールE1で、東京都主催で行われました「ライフ・ワーク・バランスEXPO東京2023」に出席し、「東京ライフ・ワーク・バランス認定企業・認定状授与式・大賞優秀賞発表」を拝見してまいりました。

コロナ禍で「テレワーク」が急速に普及しました。また、育児・介護休業法が改正され、新たに「産後パパ育休制度」が創設されました。今日、人は自分が望む生き方を選択しやすくなったとともに、企業や組織は多様な働き方が選択しやすい環境づくりに取り組むようになってきています。この度のイベントで、多様な生き方と働き方が広く普及し、個人や組織がお互いにウィンウィンの関係が創られることが望ましいといえます。

東京都も引き続き、職員が生活と仕事を両立し、生き生きと働ける職場づくりを推進する為、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた働き方のブラッシュアップや普及啓発に努めなければなりません。



小池都知事を中心にして、今回受賞された企業の皆様

●島しょ地域の振興

東京都小笠原村の村長、村議会議長をはじめとする村議会議員の全員の皆様のご来訪・要望活動を、都議会正副議長でお受けしました。

この度の要請・要望活動で触れられたように、戦後、小笠原が本土復帰したのちの社会インフラの定期的整備とその自治体としての存続は極めて重要です。それは、少子高齢化社会の進行への歯止めという意味でも、また小笠原諸島の存在それ自体によって日本の排他的経済水域の3割をも占めていることから明白なことです。大自然豊かな小笠原村のサステナビリティに東京は常に目を向けていなくてはなりません。

小笠原の振興に関する法律は、5年の時限立法ですので、5年ごとの適正なローリングの為に、小笠原村と東京都はタッグを組んで諸々の要請を国に対してすることが大事です。



小笠原村議会議員より記念品を賜る

●春の選抜高校野球東京都代表にエール

第95回選抜高等学校野球大会の東京都代表校であります、東海大学菅生高等学校の皆さんと、二松学舎大学附属高等学校の皆さんの、都議会表敬訪問を、正副議長でお受けいたしました。

何と言いましても、コロナ禍等の世上に遭って、この春の選抜高等学校野球大会の切符を手に入れた感慨はひとしおの事と思います。学校長を始めとして、監督やコーチ、そして保護者会の方々の日頃からの努力と練習と協力の成果が結実したものであって、関係各位におかれては生涯忘れることの出来ない思い出として強く心に刻まれることは言うまでもありません。

そうした中、このところ都立勢の都大会での上位進出が減ってきているようにも感じます。監督やコーチのなり手不足や進学の問題等々様々な原因があるかと思いますが、高校生のキビキビとした動きとひたむきにボールを追いかけるその姿勢は、都民の皆さんに感動や勇気、そして新鮮さを与えてくれます。都としまでも文化・スポーツの振興に手を緩めることは許されません。

なお、当日は、私からは、両チームの関係者の皆様にご挨拶をしたのち、東東京代表校の野球部キャプテンに、硬式野球ボール2ダースを贈呈。加えて、正副議長と各校関係者の皆さんと記念写真に納まりました。



東京都代表校を前にしてのご挨拶

●世界から選ばれる都市・東京へ

千代田区内で開催されました「シティテック東京」と「ジーネットリーダーズサミット」の歓迎レセプションに、都議会を代表しまして出席し、ご挨拶をまいりました。

東京国際フォーラムを主な開催場所とする「シティテック東京」も、またヒルトン東京ヒリアルとオンラインとのハイブリッドで開催している「ジーネットリーダーズサミット」も、いずれも東京都がかなりの熱を入れて主催しました。

前者には、東京をスタートアップ(新興企業)の世界的な集積拠点にしようとする意図があり、会場では、隈研吾さんの基調講演、トークセッション、ピッチイベント、個別商談などが行われました。展示ブースでは、「空飛ぶ車」、水上に設置できる「太陽光パネル」、AI(人工知能)、ドローン等々、最先端技術が紹介されてもいました。

後者には、世界の都市の市長ら要人が集い、環境問題などの共通課題の解決に向けた取組や今後の展望等について話し合うとともに、世界の都市の連携を確認するという意図があり、会場では、元ニューヨーク市長のマイケル・ブルームバーグ氏のビデオメッセージによる基調講演、環境や包摂・公正、また安全安心な都市、さらにはプレナリー等々のセッション、コミュニケ発表(共同記者発表)などが行われました。特に初日には視察が組み込まれ、水素を動力とする世界初の旅客船「ハイドロびんご」に14の都市の市長ら21人が乗船し、東京湾の景色と水素活用技術を見聞しました。

前者も後者も、東京都が初開催したものです。都はこれを契機に、覚悟をもって、東京発のスタートアップの育成や新技術を生かした都市の課題解決に力強く取り組んでいくこととなります。



汗をかきながらの英語での本格的スピーチ

